

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和4年3月31日

事業所名 アソシアホイスコーレ

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1	0		基準は満たしているが、より良い居場所を目指して室内の環境整備は常に見直しを行う
	2	職員の配置数は適切である	6	1	0		基準は満たしているが、手厚いサポートを考えるともう少し配置したい
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	0	1		スロープやユニバーサルトイレの設置をしている
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	3	0		目標設定と振り返りの流れがODCAサイクルと繋がる点についてスタッフ間で共通認識を持つ
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	5	0		評価表のアンケート集計結果をスタッフ間で共有しているが、その他の保護者からの意向の共有も再確認を行う
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	3	0		事業所HPにて公開している
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4	1		第三者の外部評価は設けられていないが、関係機関や来客からのご意見を共有して改善を心がけている
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	0		
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	0		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	0	6	1		標準化されたツールがまだなく、適切なツールを取り入れられるようにする
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	0		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1	0		座学やグループワーク、屋外活動などさまざまな活動を組み合わせているが、定番化しないよう今後も工夫を行う
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	0	6	1		通信高校の学生が多く長期休暇などが無いため、今後は細かな課題設定・支援を心がける
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1	0		個別や小集団～の集団で活動を組み合わせているが、希望や課題が抜けないよう計画の作成を行う
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	0		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	5	2	0		勤務形態により終了後の打ち合わせに参加できないスタッフもいるので、振り返りや気づいた点などの共有は継続してTeams等を活用していく
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	1	0		支援の検証・改善までを活動記録に残すことに漏れがないように確認を行う
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	0	0			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	1	6	0		基本活動の組み合わせで支援を行っているが、コロナ禍もあり地域交流などは現在行っていない	

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	0		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	1	0		今後も直接学校と連絡が取れる体制が途切れないよう努力していく
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	3	1		身体的医療ケア児の受け入れは行っていない。精神的なケアが必要な児童に関しては、継続して必要に応じたカンファレンス参加や受診同行を行っていく
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	5	0		高校生対象の事業の為、就学前の居場所との情報共有は無いが担当者会議などでは関係機関との情報共有と相互理解を今後も行う
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	1	0		卒業前や新しいサービスへの移行前後には共有会議などを通して情報提供を行っている
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	5	0		専門機関との連携を取りながら助言を活かしていく
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	3	4		高校生対象の事業の為、児童館などの交流はないが、課外活動などで年代との交流が持てる機会を探していく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	6	1		事業所からの参加が出来ていないので、今後は参加ができるよう検討していく
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	3	0		面談に限らず電話やメール、LINEなどを活用して情報交換を行っているが、今後も共通理解を深めていけるよう心がける
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	0	5	2		問い合わせや希望があれば関わり方などの助言や地域で行われているペアトレ情報を案内している
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1	0		利用契約時に行っているが、保護者や利用者からの疑問や確認したい内容までフォローできるような説明を心がける
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1	0		その都度、保護者の希望に応じた面談や電話などを通して相談を受け悩みや不安の軽減を図ります
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	5	2		コロナ禍につき企画や開催が出来ていない現状があるが、状況を見て場を設けていきたい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	4	1		毎月のスケジュールを配布して行事予定などの発信を行っている。その他の情報発信方法も検討していく。
	35	個人情報に十分注意している	7	0	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	1	0		特性に応じた適切な情報伝達を今後も継続して行う
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	3	4		スタッフ間でもアイデアを出しながら地域との交流を図れるようにする

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	3	0		マニュアルに関してスタッフ間だけでなく、保護者にも周知を行っていく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	0		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	1	0		県の研修参加や事業所内での研修で虐待防止の徹底を行っている。今後も継続して行う。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	4	1		利用契約時に説明・了解を得た上で、止む迫えず行う場合には記録に残すと同時に保護者にも連絡を入れ状況の説明を行うようにしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	5	1		保護者からの情報に沿って対応している。アレルギー反応が強い児童に関しては保護者に医師の指示書の提出をお願いし対応を心がける
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	0	5	2		ミーティングでの共有を行い、改善策を検討・実施の記録はTeamsで行っているが事例集としての記録も取り入れていく